

教科等研究会（小・中学校特別支援教育部会）

平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

子どもの姿から出発する「分かる・できる」「楽しい」授業づくり
～一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業づくりの工夫～

2 研究経過

	期 日	場 所	授業者、内容等
第1回	5 / 26	白旗小	年間計画作成 テーマ決定
第2回	8 / 1 (全日)	御船町 益城町 甲佐小	わいわいなかま（御船町）九州ラーメン党（益城町）施設見学 講話「高等学校における特別支援教育のあり方」 御船高校 岩本 教諭 講話「保護者支援とネットワーク作り」八嘉小学校 本島 教諭
第3回	11 / 10	嘉島中	嘉島中 外尾教諭 鶴村教諭 自立活動「こんなとき、どうする？」
第4回	1 / 26	広安西小	益城中 岩尾教諭 総合「おいしいパンを作ろう」 広安西小 布田教諭 寺尾先生 赤崎講師 川口教諭 藤川教諭 井上教諭 横山教諭 「実践発表」

3 研究の概要

(1) 研究の内容

①研究テーマについて

今年度、特別支援教育部会では、「子どもの姿から出発する『分かる・できる』『楽しい』授業づくり～一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業づくりの工夫～」というテーマで研究を進めた。

現在、特別支援教育は新たな過渡期にあると言える。児童・生徒の教育的ニーズはますます多様化し、特別支援学級在籍児童・生徒の数も増加傾向にある。一人ひとりの子どもの実態をしっかりと把握し、この子どもにつけたい力は何なのか、吟味することが重要であり、子どもに合った教材・教具や支援方法を工夫して「分かる・できる」「楽しい」授業づくりを行うことこそ、特別支援教育の根幹であると考えている。また、学齢期の今、授業づくりを工夫し、一人ひとりの実態やニーズに応じた支援方法を模索していくことが児童・生徒に生きる力を身につかせ、将来の自立へ向けての重要な第一歩となると考える。

そこで、平成29年度において、これまでと同様、全体研究テーマの一部を部会の研究テーマとし、それぞれが担任する子どもの姿から、授業を組み立てていくことを重視したいと考えた。また、サブテーマを「一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業づくりの工夫」として、子どもたちの実態や特性から教育的ニーズをどのように捉え、そこからどのように授業をつくり上げていくかということに視点を当てて研究を進めていくこととした。

今年度の部会員は80名を超えた。会員数が多いので、できるだけ会員のニーズに応えた研究会にするべく、地区理事を中心に研究会の充実・深化を図った。同時に、協議や情報交換の時間を工夫するなどして、それぞれの授業実践等を互いに紹介する機会を多く持つこととした。

②研究の実際

研究授業及び授業研究会を2回実施し、夏季休業中の1回については、全日研修として午前施設見学、午後講師を招聘しての講話を実施した。

ア 第2回 全日研修 施設見学と講師招聘による講話

今年度は、施設訪問と講話を計画し全日研修を行った。午前は、二手に分かれてわいわいなかま（御船町）と九州ラーメン党（益城町）の施設見学を行った。午後は、岩本淳香教諭（御船高校）より、「高等学校における特別支援教育のあり方」について高校での支援内容について丁寧に話していただいた。また、「保護者支援とネットワーク作り」という演題で本島隆浩先生（八嘉小学校）に特別支援学級の支援の実際や保護者支援について分かりやすく教えていただいた。夏休みの研修であったので、各自研修の中身を自分が担

任している児童・生徒と重ね合わせ2学期からの実践へとつなげることができた。

イ 第3回 研究授業及び授業研究会

嘉島中学校 外尾優希 教諭 鶴村武大 教諭（概要については、「4 実践事例」にて紹介）

ウ 第4回 研究授業および授業研究会 実践発表 益城中学校 広安西小学校

益城中の総合的な学習の時間の実践と広安西小の各学級種別（知的障がい、自閉症・情緒障がい、肢体不自由・通級指導教室）での実践報告を5つの分科会形式で行った。

80名を超える会員のニーズに応じ、前半は、それぞれの分科会に分かれて実践に学び情報交換を行った。後半は、全体で今年度の反省と次年度への展望について話し合った。

（2）成果と課題

- 4回目では、今年度初めて分科会形式で複数の先生に実践発表をお願いした。それぞれのニーズに合わせて分科会を選び参加でき、少人数で質問や意見交換もしやすかったので会員にも好評だった。ただ発表される先生方の負担も大きいので、今後検討が必要である。
- 研究協議や情報交換の時間では、4人程度の少人数で具体的な実践例を出し合うことにより、児童生徒の実態に応じた様々な支援方法について具体的に話し合うことができた。班別編成も障がい種別や学年で分けたり、経験豊富な先生にリーダーをお願いしたりして互いに悩みを相談できる場としたことで、活発な話し合いができた。
- 今年度も支援学校から研究会に参加いただいた。授業研の助言をお願いし、より専門的な立場からアドバイスを頂くことができた。この研修で研修内容がより一層深まった。
- 夏休みを利用した全日研修では、今年度、施設研修を2カ所から選んで参加できるようにした。会員は、それぞれのニーズに応じて就学前の「わいわいなかま」と就労先の「九州ラーメン党」を見学した。日頃行きたくてもなかなか見学できない場所でもあるので、夏期休業中に研修できるのはありがたいとの声が多かった。また、午後は、甲佐小に移動して御船高校の岩本先生と玉名市立八嘉小の本島先生に具体的な実践について学ぶことができた。
- 二年前より授業研究会でDVD視聴での授業参観を取り入れている。本年度もすべての研究会でDVDでの研究会となった。児童生徒の実態や特性からやむをえない部分も多い。
- 80名を超える大所帯の研究会のため、開催場所の選定、駐車場の確保等が難しく、施設見学も児童生徒の障がいの状況などからも、多人数での実施が非常に困難になってきている。
- 担任している児童生徒の状況から学校を離れることが難しく、研究会への参加が難しい会員が増えてきている。会の持ち方について再考する必要がある。

4 実践事例

（1）授業の概要

嘉島中学校自閉症・情緒障害学級生徒に対する自立活動の実践である。学校生活でよくある生徒にとって「困った場面」でこんなときはどうしたらよりよい行動がとれるのか、グループで話し合い、考え、日常生活に活かそうとするソーシャルスキルトレーニングの実践を行った。

《授業の視点》

- ①生徒のコミュニケーションスキルの向上をめざす。
- ②生徒の苦手意識を軽減し、楽しく学習できるような授業内容を創意工夫する。

《授業者自評》

- ・運命予想シートの活用：楽しんで取り組む姿が見られ、活発な話し合い活動ができた。また、苦手感を持たずに課題と向き合うことができていた。日常の指導支援に生かすことができた。
- ・ロールプレイでの実践：日ごろの生活でも使えることを実感しているようであった。
- ・授業の流れのパターン化：見通しをもって、自分たちで進める。お互いにできていないところは注意しあうことができるようになった。
- ・日常生活への般化：いいわけやごまかしをせずに、適切な報告や相談ができる生徒が増えた。ただ、何日か経つと忘れてしまうため、繰り返しの指導が大切だと考えている。
- ・時間配分：時間が足りなかった。内容の精選をし、ロールプレイの充実をさせるべきだった。
- ・まとめ方：教師主導になっていた。自然に子どもたちの言葉からまとめができたなら良かった。
- ・課題のテーマ設定：よりニーズに応じた設定をすべき。予想される生徒の反応を踏まえたテーマ

マ設定の必要性がある。

- ・場の設定：コの字型の席の配置にすべきだった。

《協議より》

- ・ロールプレイについて。今年度に入ってから本単元で初めて取り入れた。事前研で意見が出て取り入れた。子どもたちにとっても取り入れて良かった。
- ・自立活動を全員でやっていることに感心した。連帯感も育つと思う。「こんなときどうする？」を3つ想定していたが、子どもたちの体験する「どうしよう」という場面はこのような3つの場面が多いのか。初めて取り組むため子どもたちから答えが出やすいものについてフォーカスを当てた。3学期は友達についても行っていく。課題については臨機応変に対応していく。
- ・学校ではできても家庭ではできないことがある。家庭との連携や評価はどのようにしているか。家庭での般化や評価は今後の課題である。連絡帳で授業を行ったことをお知らせした。家庭での般化については把握不足だった。これから発展的に家庭での般化を目指していきたい。
- ・この授業をした後の生徒の様子について。たとえば忘れ物をしたときに机の上に体操服入れがあり、子どもが「体操服入っていないどうしよう」と以前は察してほしそうに言っていたが、授業を行った後、「先生、忘れました。すみません。」と報告できるようになってきた。
- ・以前、自立活動でやっていたがヒットするものとしめないものとあった。本人の困り感と担任の感じ方が違うことがあった。本人のニーズと親のニーズ、担任のニーズとがあると思う。子どもが苦手としていることに授業で取り組むことについて拒否感を示す子どももいる。個別ですることと集団でした方がいいことがある。
- ・子どもの困り感を小中学校で引き継がれていくとより良い実践につながると思う。
- ・般化が肝になってくると思う。一時間の中で般化は難しいと感じることが多い。日常生活といかに位置づけられるか、日常生活から課題を持つてくるようにする。子どもたちが授業を思い出することができるように、授業と日常生活を行き来して般化ができるように目指している。

《まとめ》 筑紫校長（清和小） 今田教諭（松橋東支援学校）

- ・もうすぐ高校の通級が始まる。今年は高校で実験的にSSTに取り組んでおり、参考にしたい。
- ・高校では、何が楽しいか、どんな仕事をしたいかわからない生徒が多い。また、自分の目標が見えていないまま過ごしている子が多い。小中学校の先生には目標を見定めていくことのできる子どもを育ててほしい。自己肯定感が大切になっていく。
- ・学校ではできるが、般化をどうしていくかというとき、褒めることがとても大事。家庭での般化は難しいが、まず褒めることをしてもらいたい。「ただいま」「いただきます」などの挨拶が家庭の中でできているか、把握する必要がある。
- ・学校と連携して、学校であったことを報告することを宿題にするとよい。報告できるようになったら、報告にプラスして感情を伝えるようにする。それもできるようになったら、加えて理由を伝えるようにする。というように発展的に取り組んでいくと、家庭での般化ができていく。
- ・褒めることが自己肯定感を高めることにつながる。積み重ねが大事であり、自己肯定が高まることで将来の生活につながっていく。小中学校の小さい時からそのような取り組みを行うことが大事である。
- ・自立活動の内容の設定をするとき、その子の実態把握をしっかりすることが大事である。何ができるかできないかを把握し、自立活動の6項目に当てはめる。6項目の中で関連しているところと一緒にやっていくと何をしていかないといけないのか見えてくる。すると、3年後や、もっと先の子どもの姿が見えてくる。実態把握は複数で行うといろいろな意見が出てきて良い。
- ・授業研究やフロアの先生の話を書いて本校でも実践していきたいと思うような話があり、勉強になった。ぜひ、今日学ばれたことを実践に役立てていただきたい。

（2）学習指導案

自立活動 「こんなときどうする？」 外尾 優希 教諭 鶴村 武大 教諭（嘉島中学校）

① 単元について

ア 単元について

日頃の学校生活から将来の社会生活・就労に必要なコミュニケーションスキルの定着・向上を目指し、コミュニケーションの学習「いきいきタイム」の時間を設定している。この学習では、「あいさつ」、「返事」等のコミュニケーションにおける基本的な事項から、社会的自立の基礎となるコミュニケーションスキルの獲得を意図し、ソーシャルスキルへの向上を目指した学習内容を編成している。学校生活やさんサン仲間の行事等の実際的な場面で明らかになったコミュニケーションに関するニーズを中心に引き上げ、課題場面を設定し、生徒が自ら考える

場面を設定し学習活動に取り組んでいる。テーマとなる課題場面を繰り返し考察することで、正しいコミュニケーションに関する知識や実践の般化をめざしていきたい。

イ 指導に当たっては、以下のことに配慮して学習を進めたい。(抜粋)

- 話し合いでは、全員が意見を出せるよう2つの班に分け、特性等を考慮し班編成を行う。
- 生徒の興味・関心を惹きながら、学習の要点を効率的に伝えられるよう授業全般において大型テレビとプレゼンテーションソフトで情報提供を行い、板書と組み合わせて進める。
- 教材に使用する写真は、生徒の関心が向くよう、生徒や教師が写った写真を使用する。
- 話し合いにおいて、積極的に意見発表が行えるよう「私の運命予想シート」を用意する。
- 学習の理解度を確認できるよう、授業の終盤でふりかえりシートで自己評価をさせる。

② 単元の目標

- 場面に応じた、適切な報告や相談、返答の仕方について知ることができる。
- 適切な報告や相談、返答の大切さについて理解し、実践する意欲を高めることができる。

③ 本時の学習

(3) 本時の展開 (抜粋)

過程	学習活動	支援上の留意点	予想される生徒の反応	資料等
開始前	自分の席を確認して着席する。	□事前に机を配置し、テレビ画面に席順を表示する。	(A)席に座らない。 ⇒着席を促し、難しいときはきらめき学級で過ごしながら様子を見る。	大型テレビ PC
導入 6分	1 学習の流れを知る。 2 「聞く姿勢」を意識することを確認する。 3 質問ゲームをする。	□テレビ画面に本時の学習の流れを示す。 □「気をつけよう!『聞く姿勢』」を黒板に貼る。 □テレビ画面でルールと題を確認する。 □会話に使える言葉をワークシートに記す。 □日常会話で使える話題の見つけ方について確認する。	(全員)姿勢を正す。 (C)自分から話しかけることができない。 ⇒ワークシートを見て言葉を選ぶよう促す。	ポイント ワークシート
展開 37分	4 本時の学習をする。 (1)前時の復習をする。 (2)課題場面を確認する。 (3)めあてを確認する。 (4)課題場面での対応(3パターン)とその結果を班毎に考える。 (5)話し合いで出た意見を発表し、適切な対応を考える。 (6)ベストアンサーのロールプレイをする。	□前時の授業で使用したスライド等をテレビ画面に映し、前時の内容を思い出しやすくする。 □4枚のスライドで課題場면을提示する。 □『私の運命予想シート』を用意する。 □話し合いのルール(①1人1回は意見を言う、②相手の気持ちを考えて話す(暴言、チクッと言葉はNG)を、テレビ画面に提示する。 □1つの場面ごとに話し合う時間を5分設け、タイマーで計る。 □1班にT1、2班にT2が参加し、適宜支援を行う。 □1つの対応ごとに、出てきた意見をホワイトボードに貼る。 □「発表するポイント」を意識するよう促す。 □出された意見を中心に、適切な対応(言葉)をまとめる。 □適切な対応をすることによるメリットをおさえる。 □質問ゲームの相手とペアでロールプレイをさせる。	(B・C・H) 前回の学習について積極的に意見を述べる。 (A)話し合いに参加しない。 ⇒T2が班に入るよう促す。 (C・F)記入する文字が小さい。 ⇒シートの見本を渡す。 (D)字形にこだわり、書字に時間がかかる。 ⇒タイマーを置く。 (B)発表の声が小さい。 (C・D)早口になる ⇒教室後方に「伝わるポイント」を貼る。 (A)ロールプレイをしたがらない。⇒T2がペアに入る。	シート 見本 タイマー マジック ホワイトボード ポイント スライド
まとめ 7分	(7)適切な対応についてワークシートにまとめる。 5 本時の学習の自己評価をする。 6 次時の確認をする。	□穴埋め形式のワークシートを用意する。 □4段階評価の自己評価と一言感想の枠を用意する。 □次時の学習についてスライドに提示する。		ワークシート